

# 東日本大震災被災地視察研修

8月26日から2泊3日の日程で、宇城・上益城地区の県立学校9校（御船、甲佐、宇土、松橋、小川工業、矢部の県立高校及び松橋支援学校、松橋東支援学校、松橋西支援学校）の代表生徒及び職員（団長：甲佐高校 蔵田勇治校長）19名が、福島県いわき市を中心に東日本大震災被災地視察研修に行ってきました。

## 1 被災地視察

8月26日（月）午後福島県に入り、東京電力広野火力発電所、Jヴィレッジを見学しました。Jヴィレッジではメイングラウンドが、福島原発の作業に当たる方々の宿舎となっていました。

8月27日（火）は、朝から小学校校庭に建てられた浜町商店街を見学したあと、海岸沿いの被災地をバスで廻り、時々バスを降りて見学しながら、語り部の方に説明をしていただきました。昼食後、遊覧船で海上から震災の跡や復興の様子を見学した後、小名浜高校へ向かいま

した。  
8月28日（水）被災した水族館を見学した後、帰路につきました。



【Jヴィレッジ】



【浜町商店街】



【被災地見学】

## 2 生徒交流会

8月27日（火）午後、いわき市の小名浜高校を会場に、宇城・上益城地区県立学校といわき地区県立学校の交流会を行いました。いわき市からは県立高校、養護学校を合わせて11校の参加がありました。

いわき海星高校の「じゃんがら踊り」で歓迎され、互いに自己紹介した後、震災体験発表を聞き、学校種、学科別に5つのグループに分かれて意見交換を行いました。予定された時間はあっという間に過ぎ、時間が足りないとおちこちから声上がるほど充実した時間を過ごしました。



【生徒交流会の様子】

## 3 報告会



【文化祭で発表】

宇土高校では10月4日の文化祭で、3月に中学・高校の生徒会で訪問した時の報告と共に、全校生徒に被災地視察研修報告を行いました。現地を見て感じたこと、復興の様子を説明し、「僕たちに何ができるか考えよう」と呼びかけました。宇土高校以外の学校においても、文化祭等を通じて、被災地視察研修報告が行われています。

## 4 感想

参加した全ての生徒から、感想文が寄せられました。現地に行って初めて知った、同世代の生徒たちの思いを、是非自分の学校の生徒たちに伝えなければという熱い思いが伝わってきました。訪問した小名浜高校の校庭には放射線モニターが設置されていました。現実にはまだ多くの困難を抱えていますが、風評を排し、現地の人々の前向きな姿を多くの人に伝えることが、今回の視察に参加した者の使命であると感じています。生徒たちはまた訪れたいと話していました。



【放射線モニター】